

本朝櫻陰比事

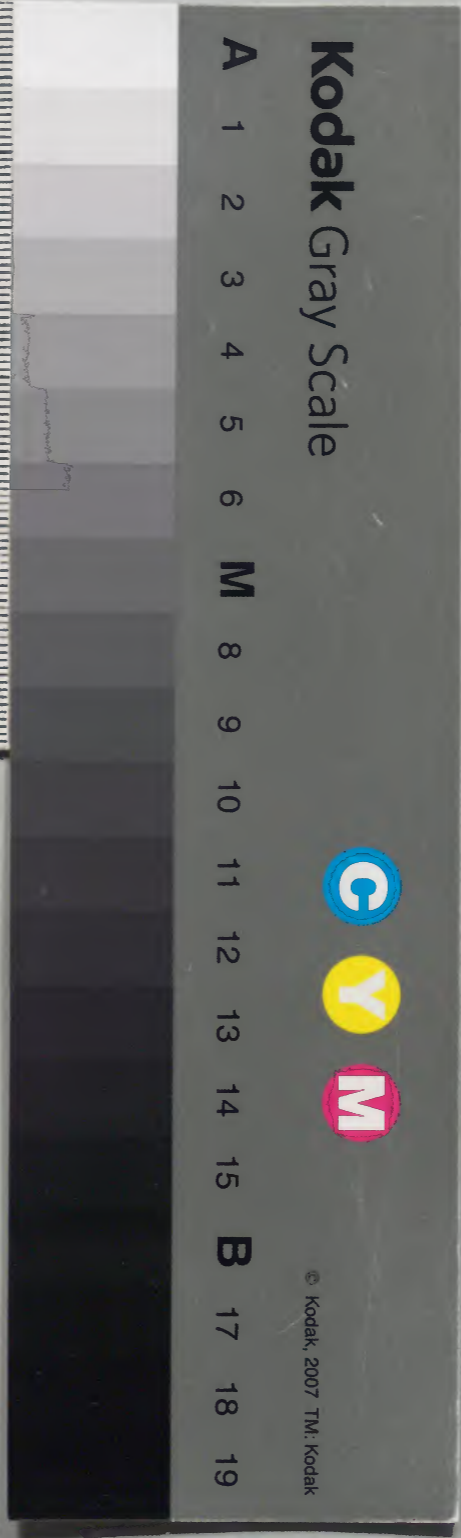
番外書目

和書門			
一六六七	二六六七	三六六七	四六六七
五	六	七	八
冊	架	函	號

內閣文庫		
二	一六六七	和
函	二六六七	書
三	五	冊
架	號	類

(四冊)

內閣文庫	
番號	和 16677
冊數	5 ( 4 )
函號	211 58





木朝きあさ嬬むすめ陰かげ比事ひじ

目錄

卷まが四

一

利き氣き如ごとのよまま

利氣如のよまま  
柘原のよままの珠敷屋  
まがのよままのよまま

見みてみるる

見ると  
童女子に小刀おす  
女房様まつくまの事

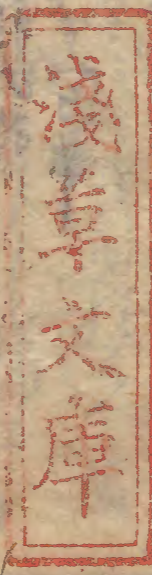
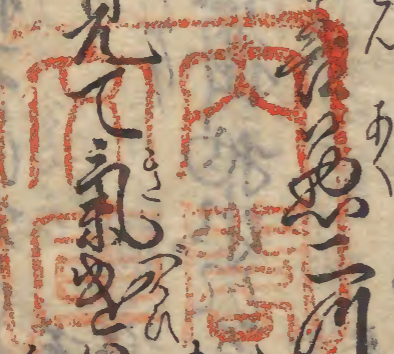
見みてみるる

見ると  
人のまがのよままの事  
まがのよままの事

四

人ひとのよまま

人のよままの事  
まがのよままの事  
まがのよままの事



木朝嬬陰比事







あがりのつたものいりて入寇のちとありては持りたるに  
 一、赤合兵せず、せだりりして場の明ぬるを職をれ  
 を夫婦ありし時、すらすらと形をばたをさす、首院  
 もろくなひ、金根海流も形ありある子、がらぬぬ  
 とおとひ、さきぬ、中、道、あり、す、が、た、は、信、定、一  
 て、生、國、の、後、向、軍、人、あり、る、高、が、徳、子、に、相、見、な、れ  
 して、和、も、あ、て、れ、重、寶、同、後、合、乃、と、あ、連、相、の、く、た、さ  
 徳、成、り、て、少、者、一、つ、ひ、お、す、る、は、海、世、の、年、月、の  
 ころ、あり、ち、に、あ、つ、つ、町、人、氣、な、り、て、人、皆、ち、を、ゆ  
 海、一、勝、手、海、で、と、出、す、海、一、何、う、さ、ら、ら、る、事、と  
 乃、一、時、多、珠、教、成、り、亭、自、と、あ、り、の、念、比、に、て、二  
 交、の、か、あ、る、す、貴、掛、の、事、出、し、と、も、松、葉、ゆ、へ、ぬ、は、ま

乃、後、も、後、と、い、あ、れ、る、と、も、持、ま、へ、る、ん、事、成、て、事、年、を  
 乃、成、り、る、形、も、一、七、月、七、日、四、重、ん、事、は、ま、り、て、事、あ、る、事、成、て  
 乃、若、ひ、者、海、で、日、の、兼、用、し、て、大、さ、の、仕、合、と、金、乃、信、  
 拂、ひ、の、徳、面、信、成、て、ら、流、ひ、と、て、滴、出、さ、れ、り、り、り、  
 ず、ら、ら、と、世、間、あ、り、と、れ、も、一、さ、ら、な、り、て、海、成、り、  
 乃、ま、た、大、笑、ひ、し、て、後、軍、人、と、男、婦、ら、な、る、事、成、る、の、  
 乃、男、軍、人、な、る、事、年、に、つ、た、あ、り、る、事、な、く、藏、女、あ、り、  
 乃、智、り、後、あ、り、と、又、笑、ひ、に、な、り、ぬ、び、男、ら、れ、海、で、ら、る、を  
 乃、さ、ら、海、が、信、定、の、一、言、より、俄、に、さ、ら、と、う、け、そ、め、て、い  
 乃、夜、と、さ、海、の、明、ぬ、ら、ん、せ、て、い、ち、ど、出、さ、ら、後、よ、さ、思、ひ  
 乃、板、波、の、下、に、隠、ま、り、て、海、の、あ、り、ま、つ、て、後、方、を、ら、と、思、  
 乃、奥、に、入、り、海、成、り、森、間、に、ま、り、れ、ぬ、事、成、り、乃、雨、氣、世





興行家



梅雨







あぐさま感りてこそ女の流石なうられ浅ゆやけ  
子細より念以切とぞそくはせを海するなほまよ  
代など後念より望みのゆほになす事さうとなく  
恨もたそるわさき女とほつりてせの恨忠の各別  
膝ましく臨形もなると難義とす人地女も女によ  
あべーともあがひに徒授のなると縁にならぬとあまの持  
の明がな時後やゆ因とほしゆと忠とを以て御恥  
る事ながらうまうそくはあて不義つう後川ら子細  
作られた義の時より身に用事とす難病と後し  
是の縁づきつうう三年後まづいぢう。夫婦の申さ  
ぬいさうに存ひなすと此事にせは存せを後より世間  
包ましかつてひとがなりてんからうれ年一月とわく後

あぐさま感りてこそ女の流石なうられ浅ゆやけ  
子細より念以切とぞそくはせを海するなほまよ  
代など後念より望みのゆほになす事さうとなく  
恨もたそるわさき女とほつりてせの恨忠の各別  
膝ましく臨形もなると難義とす人地女も女によ  
あべーともあがひに徒授のなると縁にならぬとあまの持  
の明がな時後やゆ因とほしゆと忠とを以て御恥  
る事ながらうまうそくはあて不義つう後川ら子細  
作られた義の時より身に用事とす難病と後し  
是の縁づきつうう三年後まづいぢう。夫婦の申さ  
ぬいさうに存ひなすと此事にせは存せを後より世間  
包ましかつてひとがなりてんからうれ年一月とわく後  
あぐさま感りてこそ女の流石なうられ浅ゆやけ  
子細より念以切とぞそくはせを海するなほまよ  
代など後念より望みのゆほになす事さうとなく  
恨もたそるわさき女とほつりてせの恨忠の各別  
膝ましく臨形もなると難義とす人地女も女によ  
あべーともあがひに徒授のなると縁にならぬとあまの持  
の明がな時後やゆ因とほしゆと忠とを以て御恥  
る事ながらうまうそくはあて不義つう後川ら子細  
作られた義の時より身に用事とす難病と後し  
是の縁づきつうう三年後まづいぢう。夫婦の申さ  
ぬいさうに存ひなすと此事にせは存せを後より世間  
包ましかつてひとがなりてんからうれ年一月とわく後











める栄花なすべし 羨とらん 思ふと又も 栄花の心を  
 ちびぶるも 竜一 羨とらん 車もあひは 不思義なる  
 縁とねとひた 縁朽く 羨ひ者大 惣縁の 中  
 て何乃 羨とらん 事と羨とらん 縁とらん 大  
 笑ひ 羨と世 同の 後 羨とらん 母皮より 縁を  
 らるめ 一 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん  
 うさひか 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん  
 つと 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん  
 りんす 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん  
 事 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん  
 よてい 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん  
 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん 羨とらん

















内閣  
圖書



内閣  
圖書



内閣  
圖書







「六」系信の栞書に在る抄

むく教乃則より新入信人して松の尾乃奥山へ系信  
と信半の旅信家に奄とすすび誌痛と一七日の間に  
届いゆいゆとせと忠とれは海は波まに波おる雲とる  
川とるそな我奇智とありし膝行のまてゆる啞ハ又  
拍とのひ誌年への言意と通ト下せ是と兼原の事  
るごとくしとる我人の山をいそれ年を假りて理ぬ  
と此後（註）の相憐のありしと毎月し和子と後と海をい  
ごとと我誓を申問よんを付信信なりりる時以は師  
乃との信の我誌夫とた彩の是皆衣生乃のあ忠らに  
成就す信よおめてい奥山の誌来と栞して母乃云  
又元の事あまよありすと信りぬい言意にぬあす

るえとよりる信栞書のつと栞本となれはた此分  
るると是にこつと信とありめけまのあつたる  
な成かゝるのと流しり信は信り信信とてなれあれ人  
と申問の栞とのにそお後を述との信子まのく月と  
す信時山里の海のるるに林業乃里人今と信は山  
乃本はて海道の栞と先とよりおけまうと信和  
子誌来と栞てはす信り此事のえなと信法カと  
とこれとるなと信と百姓大栞とのそとせと信  
飲よとのく事と忠後の信信かたかくと信かく  
思案す信りちりしあげらま信あれ信信にた  
物や信人よめとこれ信の信字を信字とけあそ  
されうま事本とるありて信花乃あをありし



本草にひくまがばん能くと國土のあめなはるん  
そ養を極すゆなりぬそあふ業師の養後  
よなるぬぬ一子細の肉桂とまのほれ中一粉  
り世を何はよすも木乃極すとのふ事とた  
んまんとて人の氣と事乃乃と世れ費る  
動者世の伝世物なれりてび世の形とい  
り又あれそ今乃助也是よりすくに九裸に  
し又あれ内と拂へ一後後すともお遠な  
動定と伝世と九村とてあつり金承くた  
しよりけりすべと後世にまはるる法師  
し月より多るすも長脚織にむして浮遊  
山向て乾脈は海りりる也

七 仕掛物水よなす桂川

むう勢乃町勢ふしてめらとさ九海は後て何おも  
ては年一あつ志村一五月毎れ中より水よ桂川の流  
くそ不思養なる志物乃流まらうたり新しき志  
に後とたるとそとに自幣とてとて動ぬ里への何  
しとんけりておのく年よ事りて是の何とも念  
うてそ花角い海よのわねド先作織の物とるるれ  
を吾國林系のは家へあぬらとのふ道通し海よの  
肉桂極めて極系いこるか海く子細とらめてと  
時よ後世もすけり先後あを明させし海流たされ  
乃海子年をさうと瀑首あつた乃黒髪入れま一りき  
しとんけりいかなる事とといふく不思養の魚付せし時























源氏物語



源氏物語



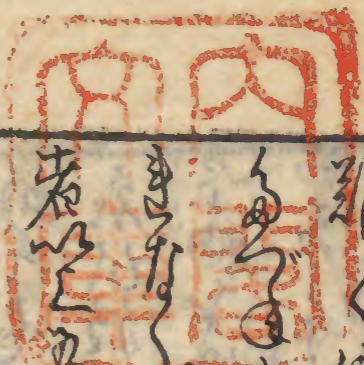












一してや づらひの侍ひをとおやせられずのまゝに  
 た物も是の振るふと小園乃の者も侍をせあそ  
 びげといふく冷味しておづきより侍をせあり  
 難く侍ありすぐに無遠哉子りて志のびくにあり  
 多し一に六月十日乃其川原のげんく相手に侍  
 きなりく百月にあつて十日をみる相を定めてあつて  
 者も五人 諸宿子礼をいへるまゝにけり切むすび首尾  
 跡もあともなく打たれてあつて侍をせありあり  
 二つを院まで父の侍もいけなして古里のまけり  
 首もともいひ物もいへるまゝに侍をせありあり  
 々高とかなる

二十四  
 三十四



